

# のれんの駅

～新しい公共～

作品名	のれんの駅 ～新しい公共～	作品番号	1/5
校名	熊本高等専門学校		
氏名	光永 周平		

まちを眺める。  
少子高齢化や地方衰退が徐々に目に見えるかたちで現れてきているように感じる。熊本県第2の都市・八代のい草葉が盛んな千丁町でも同様だ。

公共建築をみる。  
役場やコミュニティセンター、公民館は20世紀の機能主義に則った建築で閉じられた箱モノ建築ばかりだ。

このままだと、まちは衰退し活気がなくなり、公共建築は利用頻度の少ない大きなお荷物となってしまう。  
本設計では、千丁町に位置する千丁駅を土台に新しい公共を、公共建築を提案する。

## 1 これからの公共建築を考える

### いまの公共建築



「箱モノ」建築。  
20世紀の機能主義が前面に出ている固く閉じられたような建築ばかり。用がない限り出向かない、入りづらいイメージ。



コミュニティセンターなどは、機能ごとに空間が設けられている。衰退していく社会では機能毎に空間を設けても利用されず無駄な空間に。

### これからの公共建築

“自分ごと”として捉えられる建築  
“当事者意識”が持てる建築  
人々が集まり、人々のコミュニティが発生し  
そのコミュニティから空間が発生するような建築



空間に仕切りがない、広いオープンな公園のような建築。



そのオープンな空間に屋根がかかると屋内空間に変わる。道具や管理すべきものだけを“ハコ”に収めておけば、あとは広く空間を使うことができ、自分の好きな場所で自分のコミュニティを展開できる。

## 2 これからの駅を考える

### 地方の駅が抱える問題

少子高齢化などにより利用者が減る



駅は無人化し、施設の維持管理が怠る

今回設計対象とする千丁駅も無人駅だが同様の問題を抱えている。



錆び付いて穴も開いていて数年間放置されていたが今年になって修復された。



上りホームの待合は撤去されて以降、新設される見込みはない。

メンテナンスは怠り利用者へのサービスが低下している。

### これからの駅に必要なものは...

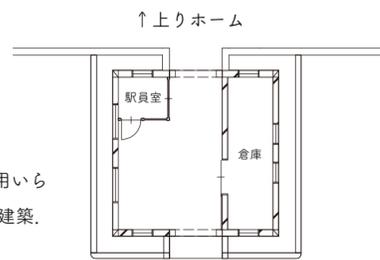
無人駅など活発でない駅において、その維持管理には市民の参加が欠かせない。

・市民一人一人が「自分の駅」だという意識をもつ必要がある。  
↓  
・駅が市民の活動の場になると、その意識は高まる。

駅は「まちの玄関」である。衰退しているまちの復興やコミュニティの再生などに多くのポテンシャルを持っている。しかし駅舎は画一化されたものばかりで地域性のないデザインばかりである。それぞれの地域の個性が駅舎に表れてきていない。



千丁駅舎  
屋根や開口部に円が用いられている可愛い建築。



↑上りホーム  
↓千丁駅前  
千丁駅舎 平面実測図

## 3 千丁町を読み解く



町産業の中心は、全国の約96%を占めているい草・畳表産業。太平洋戦争終結後、戦後の住宅復興やマイホーム建築の急増による需要拡大で昭和40年代に全盛期を迎えたが、安価な外国産の登場などにより衰退してきた。

### 千丁町新牟田地区付近の土地利用の移り変わり



1970年代後半



現在

い草業・農業の衰退 → 休耕田の増加 →  
休耕田の宅地化 → 住宅やアパートの増加

背景：地理的条件による生活の利便性の影響（隣町（鏡町・海士江町・日置町）に行くくと商業施設がある）  
（千丁駅があり、熊本都市圏への移動も容易）

### 千丁町の人口

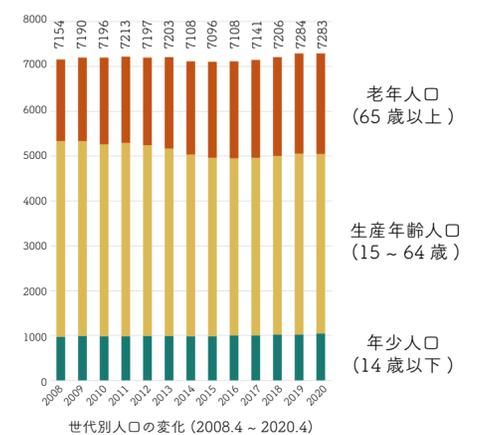
comparison  
(2008.4 ⇄ 2020.4)

総人口  
7,154 → 7,283  
1.803% ↑

年少人口  
977 → 1,045  
6.960% ↑

生産年齢人口  
4,360 → 3,995  
8.372% ↓

老年人口  
1,817 → 2,243  
23.45% ↑



住宅・アパートの増加に伴い人口も増加している。年少人口が増加していることから、子育て世代が転入してきていると見られる。まちの風景が変わりつつあり、コミュニティのかたちも変容してきている。



千丁駅駅舎

駅の利用者は熊本市内の学校に通学する学生が多い。朝の通勤・通学の時間と夕方の帰宅時間の利用者が多く、お昼になると人気がなく静かな場所。



千丁駅前。送迎の車を止める場所や駐輪場がある。ロータリーはなし。送迎車の駐輪場は4台程度。駐輪場は風の強い日などは自転車がドミノ倒しになっている。普段も綺麗に並んでいるとは思えない。



千丁駅駅舎から見た様子。右手に囲基ステーション、左手に千丁タクシー。正面には元商店だった住宅がある。3つの建物の囲まれた雰囲気があり閉じられたような駅前になっている。



千丁駅に向かう道からの眺め

駅前にある囲基ステーションの建物により道路から駅舎を見ることができない。逆も同様で駅舎からまちの雰囲気を見ることができない。市民の活動の場にするためには、駅へ視線が届くように、駅からまちを眺められるようにする必要がある。



熊本県い草協同組合跡地。現在は舗装されていない駐車場。敷地は広いが、数台しか利用していない感じ。  
協同組合の建物は西洋建築だった。熊本地震の後に解体されたので、地震の被害があったのかもしれないが壊すにはもったいない建物だった。

新牟田加藤神社  
島阿弥陀堂

新牟田加藤神社・島阿弥陀堂

加藤清正を祭神とした神社。千丁町の大半は慶長年間に干拓されてできたものであり、干拓を指導した加藤清正が祀られている。境内には神社と島阿弥陀堂、島観音堂が三つ並ぶ。阿弥陀堂は推測で天保13年、神社は明治19年に建てられたものである。神社がある土地は、干拓前は「島貝塚」があり、平安時代の生活具や貝殻が発見されていて、集落跡であったこともわかる。



花立地藏尊

千丁駅の南方 200m 付近に位置する地藏尊。千丁町の半分が海だった。加藤神社がある島地区は以前は島であり、その島に三角寺があった。満潮時は島に渡れなかったため、地藏尊から参りした。



駅前通り。県道245号線。道幅は狭い。歩道なし。車の通りも多い。通学路にもなっているため、危険な道路である。



肥後物産

熊本の、八代の特産品である畳表を扱う産地問屋。畳表以外にもい草を使った商品や販売したり、泥ぞめをしていない畳表など新たな製品の開発なども行われている。また、生産者との勉強会なども開催している。



千丁駅前の元商店がある住宅。所々にタイル貼りの外壁がある。



駅前通りにあるもうひとつの元商店だったであろう住宅。



3

駅前には6つの月極駐車場がある。近年、駅前の空き地を駐車場にする問題や、その駐車場の利用頻度の低下が問題となっている。千丁駅前も同様の問題が見られ、駐車場の集約とその土地の利用方法を考える必要がある。



4

千丁駅東側の様子



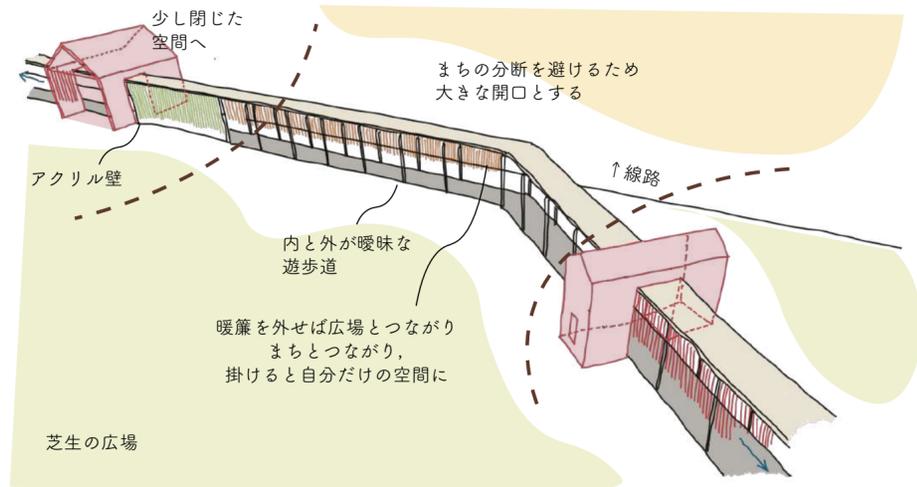
東側からは千丁駅前（西側）の人々の動きを見ることはできない。駅のホームが視線の妨げとなっており、線路を挟んでまちが分断されているような雰囲気になっている。



吉王丸日吉神社  
農業を生業としている土地では田の神のような穀霊である大山祇神を祭神としている神社。境内には農村公園も併設されている。



あけぼの保育園のお散歩



人々の憩いの場になるためには...  
↓  
駅がまちの象徴 人々の象徴のような空間になる必要がある。

“い草縄のれん”の遊歩道

まちの特産品であるい草をふんだんに使う。  
まちの生業でつくられたモノでまちの象徴的な空間を創出する。

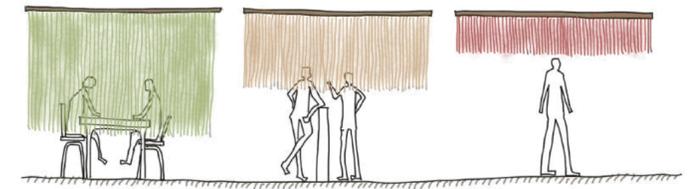
暖簾は元々、屋内に直接、風や光が入るのを防いだり、目隠しとして使われていた。「内外を柔らかく仕切る」道具である。自由に空間を仕切ったり、目線を遮ったり、自分の好きな空間へ変容させることが容易である。

↓  
このような暖簾のかかる遊歩道に大きな屋根が所々にかかる大きな半屋外のような空間が生まれ、人々が集えるような場所になる。暖簾を工夫して使うことで閉じられたような空間としても使える。  
この遊歩道空間をどう使うかは市民の自由だ。

い草縄のれんの種類



出典：良品探検倶楽部 HP

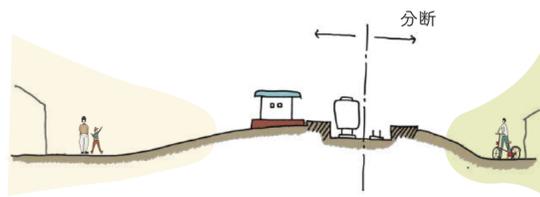


自分だけの空間を楽しむ

視線だけを遮り少し閉じた空間に

開けてはいるけど自分の領域は明確に

長さや色の違う「のれん」は、駅の象徴性を高めるほか、色とりどりのコミュニティを創出する手助けをする。  
のれんの色は、アクセント色の赤く染められたものや、い草の色をそのまま使ったもの、時間の経過で色落ちしたものがある。

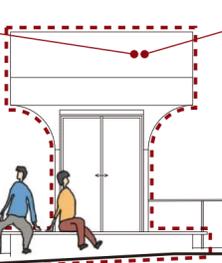


線路によってまちが分断されている雰囲気がある。ホームの高さがあるので駅の東側からは西側の人々の温もりは届かない。鉄道は便利なものだがまちを分け隔てる境界線になっている。



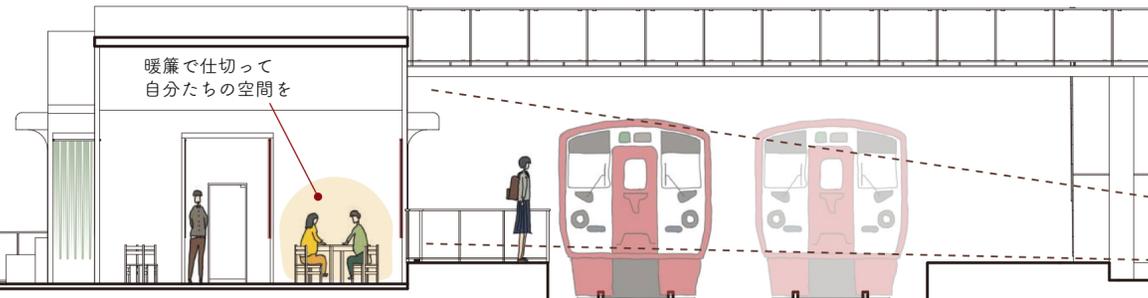
駅のホームの高さに合わせて人々の集いの場、コミュニティ空間を設けると人々の視線は行き交う。駅がまちをつなげる役割を持つようになり、まちの分断は解消される。

←至 千丁小学校・中学校  
千丁コミュニティセンターなど  
屋根はい草農家の「い草御殿」と呼ばれる住まいの何層にも重なる屋根をイメージ



駅の新たなシンボルとなるような量と立派な屋根をモチーフした塔のような建築

送迎の車を待つなどちょっとした時間でも会話できる色んな高さがあるベンチ



暖簾で仕切って自分たちの空間を

隔てるものがあったとしても視線が行き交うことで、人の動きが見えることでまちがつながる

断面図

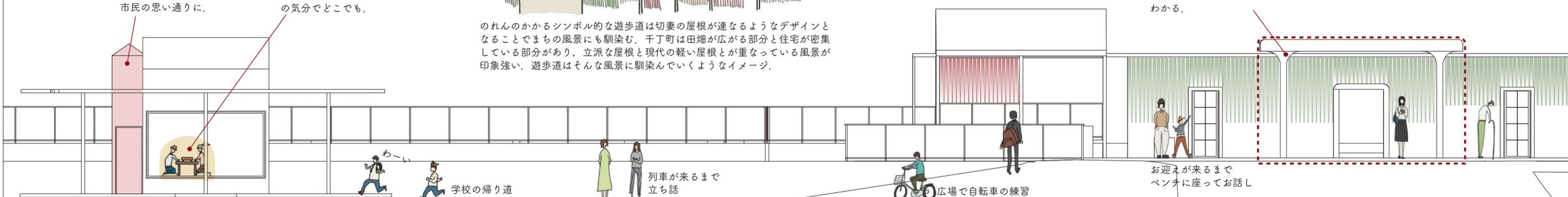
囲基の道具や管理すべきものだけを「ハコ」に収めておけば、残る空間は市民の思い通りに。

畳の空間は囲基ステーション以外にも使える。囲基もここで行う必要もなく自分の気分ですこでも。



のれんのかかるシンボリックな遊歩道は切妻の屋根が連なるようなデザインとすることでまちの風景にも馴染む。千丁町は田畑が広がる部分と住宅が密集している部分があり、立派な屋根と現代の軽い屋根とが重なっている風景が印象強い。遊歩道はそんな風景に馴染んでいくようなイメージ。

既存の駅舎を彷彿させる屋根と丸みのある改札口。ここが駅の入口だとすぐわかる。



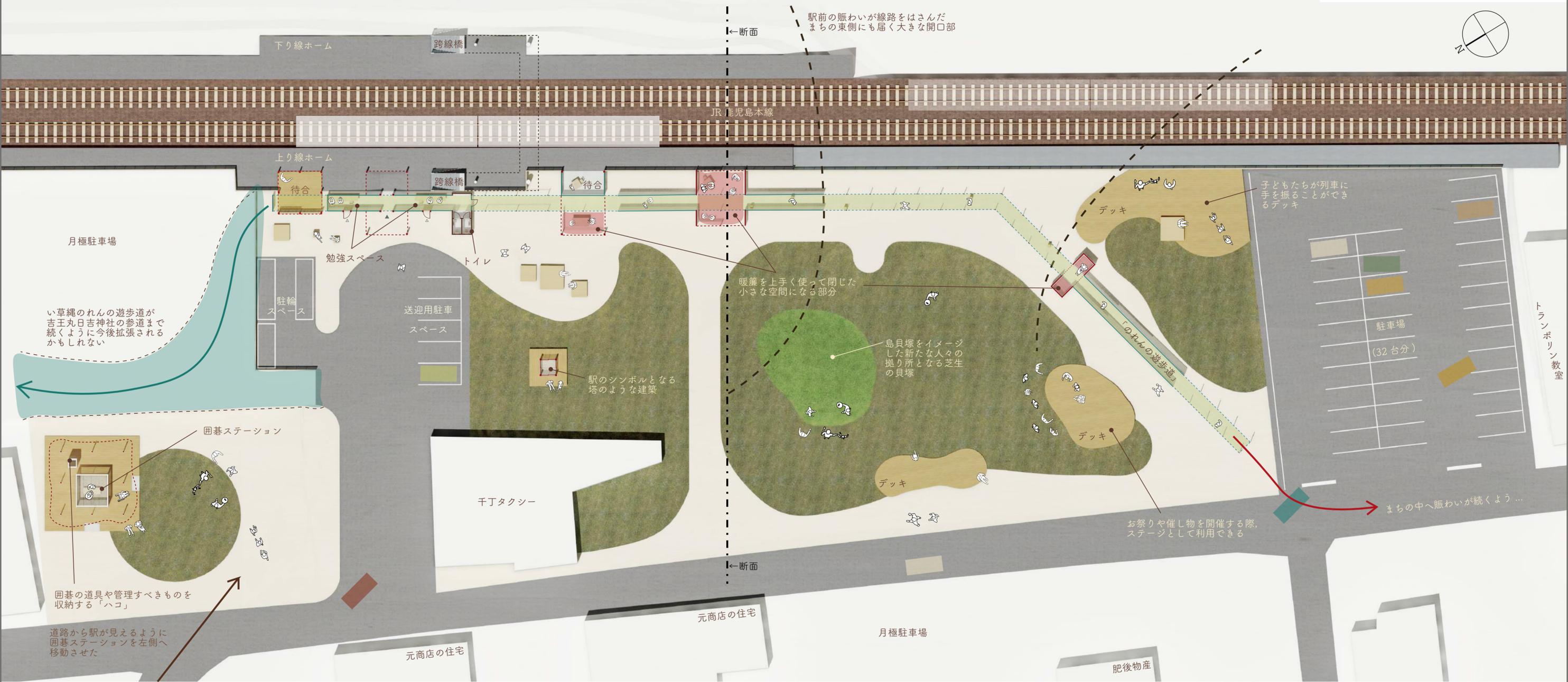
列車が来るまで立ち話

広場で自転車の練習

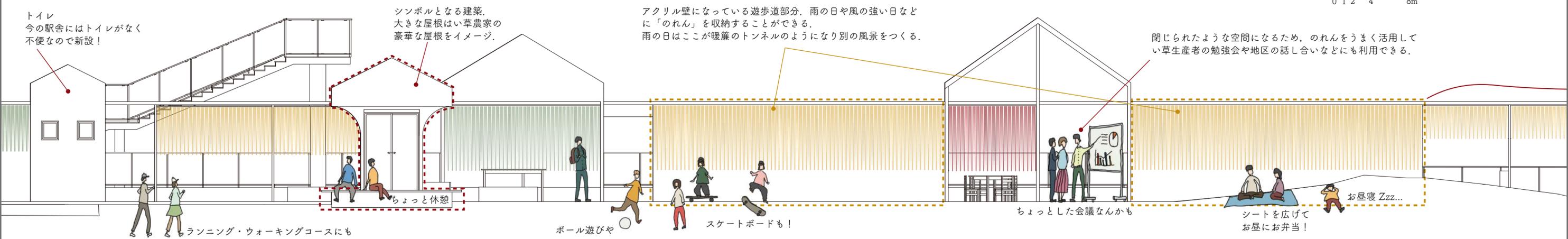
お迎えが来るまでベンチに座ってお話し

0 1 2 4 8m 立面図

作品名	のれんの駅 ~新しい公共~	作品番号	4/5
校名	熊本高等専門学校		
氏名	光永 周平		



0 1 2 4 8m 配置図兼平面図



0 1 2 4 8m 立面図



**勉強**  
列車が来るまでの時間や、お迎えが来るまでの時間に高校生や大学生は勉強する。この時ものれんで視線を遮ったり自分だけの空間をつくることできる。



**保育園のお散歩**  
近隣の保育園のお散歩コースに、園児たちは線路に近いデッキから電車に手を振ることができる。広い芝生の空間も思いっきり遊ぶことができ、子どもの成長にはもってこいの空間に。



**放課後の遊び場**  
学校の帰りに寄り道して小学生が遊ぶ。貝塚のような芝生の山で、のれんを使って秘密基地をつくったり、どんな遊びをするかは自由。子どもの発想力は無限大。今日はどんな遊びが見られるかな？



**囲基ステーション**  
現在ある囲基ステーションは新しいものへと変身。基盤を「ハコ」から出して、さあ始めよう！晴れた日は量の空間でなくともシートを広げて芝生の上でもできる。



**い草・畳表品評会**  
ステージを使って畳表の品評会もできる。現在はコミュニティセンターで行われているが、閉じられた建築の中ではその賑わいは伝わってこない。この広々とした空間で行えば人々が集まりやすい。



**小さな会議・座談会・ワークショップ**  
い草農家の勉強会や婦人会の話し合い、地区の集まりなどは、のれんを上手く活用して小さな少し閉じた空間で行うことができる。のれんをつくるワークショップも行ったりできる。



**出店・移動販売**  
駅前にはお店がない。この広場に移動販売車がきたり、屋根のある空間にお店を出店すれば、仕事にいくときや学校にいくときにお昼ご飯を購入することができる。売れること間違いなし。



**立ち話**  
電車を降りて家への帰路の途中であったり、病院の帰りに友達と話したり、久しぶりに会った友達と近況報告したりなど、小さなコミュニティものれんの通路では暖かく包み込む。

風景が途切れないように大きな開口を設けた。この部分は柱と屋根だけの単純なデザインにし、風景の邪魔にならないように、人々の温もりが線路を挟んでも伝わるように。

遊歩道の途中にある畳2畳ある空間

催し物のときに使えるステージ

勾配のある土地であるため、この遊歩道がまちの中につながっていくような雰囲気になる。

